

◆ ケアマネジャーのための情報誌 ◆

# ケアマネ SAPPORO

2016.12.1 発行

発行

一般社団法人  
札幌市介護支援専門員連絡協議会

事務局

〒001-0010  
札幌市北区北10条西4丁目1  
SCビル2F

TEL 011-792-1811  
FAX 011-792-5140

## 第103号

- P1~2 「第10回日本介護支援専門員協会全国大会in北海道」を終えて 北海道大会実行委員長 乙坂 友広
- P3. 第10回日本介護支援専門員協会全国大会in北海道 分科会発表者 感想コメント
- P4. 札幌市ケアマネ連協からのお知らせ
- P4. こんにちは！役員（厚別区支部・豊平区支部）
- P5. 知っ得(特別授業) 第6回「来談者主導とは」北海道医療大学看護福祉学部 准教授 長谷川 聡
- P6. 岡田しげひこ先生の住宅改修ワンポイント講座〈第3回 浴室〉
- P7. KPC24 きらり★ポジティブケアマネジャー 【ケアマネ奮闘記①～ 居宅】温ったか介護めくめく 岡野 秀計  
【ケアマネ奮闘記②～ 小規模多機能】ツクイ札幌稲穂 土岐 志穂
- P8. 認知症疾患医療センターを知っていますか？



## 「第10回日本介護支援専門員協会全国大会in北海道」を終えて



北海道大会実行委員長 乙坂 友広

平成28年も残りわずかとなりました。

皆様、お仕事お疲れ様です。

ちょうど1年前から、ケアマネSAPPORO巻末の「たいかいだより」にて、進捗状況をお伝えしてきましたが、10月15・16日の全国大会が無事開催されました事をご報告いたします。

今回の大会には、全国各地から総勢784名の参加をいただきました。約半分が北海道外の方達です。参加者の中には、我々が雑誌等で目にする有名な先生



等も複数参加していました。

大会の内容については、会員の皆様にもパンフレットが配布されていたので、特徴的な所を紹介させていただきます。

ご来賓として、高橋北海道知事をはじめ、札幌市板垣副市長、北海道医師会藤原副会長、札幌市医師会松家会長、厚生労働省老健局長からご挨拶を頂戴しました。高橋北海道知事においては、「知事～」という



コールにお喜びいただいたと伺っています。

シンポジウムでは、北海道で頑張っている方を中心に、熱く語って頂きました。

記念講演では、鈴木直道北海道夕張市長をお招きしました。私たちがテレビで見る印象とは異なり、とてもお話が上手で、参加者が皆釘づけでした。個人的には、機会があれば是非とも札幌市連協の皆様にも話を聞ける機会を作りたいと感じました。

今年は、北海道も台風の甚大なる被害がありましたが、本年4月に起きた熊本地震における介護支援専門員の取り組みを緊急にご発表頂きました。

大きな災害が起きた時に、私たちケアマネジャーはどのように動くべきなのか、具体的な例を交えての報告でしたが、他人事ではありません。

その後、懇親会では270名の参加がありました。北海道は食べ物で勝負！と、立食スタイルでは珍しく食事のボリュームは凄い事になっていました。

又、次の開催地石川県からは地酒が振る舞われ、銘酒を堪能された方もいらしたのではないのでしょうか…？

2日目は、分科会が開催されました。今回の大会では、当初5つの分科会を予定していましたが、想定

以上に事例が集まった事もあり、6つの分科会でそれぞれ10例程の発表がありました。札幌市介護支援専門員連絡協議会の会員からもご発表頂きました。会場によっては立ち見が出る程で、活気がありとても盛り上がりました。

その後、閉会式では、次期開催地の石川県にバトンタッチし、無事閉会となりました。

この大会を通じて、由井会長をはじめ、副会長、理事、研修委員、有志の会員、谷事務員の運営委員の皆様にご多大なるご協力をいただき、大きなトラブル等もなく、無事開催する事ができました。

又、当日ご参加いただきました会員の皆様、誌面から応援いただいた会員の皆様には、心よりお礼申し上げます。札幌市介護支援専門員連絡協議会では、29年度に学術発表会(仮)を計画していますので、皆様楽しみにお待ちください。この度はありがとうございました。



北海道大会実行委員と協力者の皆さん

## ～ケアマネ全国大会の分科会発表者 感想コメント (札幌市ケアマネ連協会員) ～

居宅介護支援事業所ひまわりネットワーク 中川 幸子 様  
演題：医療と介護の連携

在宅生活を支援するうえで医療への対応は大きな役割を占めています。医療と介護が混在した生活を支えていく過程で、その方向性を示す中心的な役割を果たす事ができる介護支援専門員を目指していきたいと思えます。

北海道ケアマネジメントサポートリンク  
奥田 龍人 様  
演題：札幌市における他職種（医療介護）  
連携の実践

札幌市における、「官製」ではない医療介護連携の取り組みとして「在宅ケア連絡会」の報告をさせていただきました。各区の自主性に任せている連絡会ですから、西区在宅ケア連絡会に特化した発表として「ぐるぐる図」をメインに連携の取り組みを発表させていただきました。フロアからの質問でも、「うわさに聞いていた取り組みのきっかけは？」などあり、先駆的に取り組んできた連携実践を発表できたのではないかと思います。この発表を機に、このような草の根的な取り組みが全国に広がることを期待します。



札幌市社会福祉協議会  
北区第2地域包括支援センター  
島崎 顕生 様  
演題：北区はつらつシニアマップ  
北区にある集いの場

今回初めて演題提出をさせていただきました。共同発表者の橋井さん、当日の発表データの作成、そして主要部分の発表を担っていただき感謝いたします。そして素晴らしい成果物を作り上げた北区のプロジェクメンバーの皆様に感謝いたします。



さっぽろ社会福祉士事務所 大島 康雄 様  
演題：地域包括ケアシステムにおける精神保健福祉士の有効性

先行研究から連携の必要性や医療機関との協働などが課題として示唆されました。アンケート調査からも受診拒否に対する苦慮が挙げられておりましたが、医療機関との連携や協働などについては上手に行っていることが分かり、精神保健福祉士の有効性を示すことができました。以上のような研究発表を行いました。調べ、人に伝えることで自分の振り返りにもなることを実感することができました。

ライブリーケア中銀あいの里 仲田 美紀 様  
演題：イベントを中心とした事業所運営と  
ケアマネジャーの関わり

「全国大会の発表なんて..」と思ってましたが、地元開催もあり開設10年の事業所の取り組みを振り返り、地域での活動紹介やCMの関わりを発表しました。気持ちの区切りがつき次のステップに進めます。良い経験をしました。自ら発信すれば得るものが大きいですね。

有限会社アット 運上 昌洋 様  
演題：地域の様々なネットワークで作り上げる  
閉院跡地を利用した地域共生複合サロン  
いしかり地域共生プラザの設立

時間的には、短い時間でしたが全国のケアマネの皆さんに北海道でも、地域ならではの地域包括ケアシステムを作ろうとしていることを知っていただくよい機会を頂いたことに感謝しております。

### 連協子ちゃんのケアマネ日記



## 札幌市ケアマネ連協からのお知らせ

当会ホームページではケアマネの求人案内を提供しています。どなたでも閲覧できる情報ですので、ケアマネジャーの求人をご検討されている事業所等がございましたらお気軽にご活用ください。

料金は1ヶ月間の掲載で、5,000円です。お申込みの方法、その他詳細はホームページにてご覧ください。ホームページ：<http://sapporo-cmrenkyo.jp/>（札幌 ケアマネ で検索可）



※11月25日現在 5件掲載中

当広報誌ケアマネSAPPOROはチラシ・パンフレットの折り込み広告が可能です。

ケアマネ向けの研修会や各種ご案内がございましたらご活用ください。

料金は、非営利団体（や個人）について、A4サイズ用紙1枚10円×会員数です。

（株式会社等営利企業は、1枚20円）

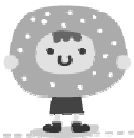
なお、サービス事業所等の広告は公平性の観点からご遠慮いただいております。ご了承ください。

お申込み方法、その他詳細はホームページにてご覧ください。



その他会ホームページでは、札幌市主催の研修会や各区支部の定例研修会の情報も掲載しております。所属する区支部以外の支部定例研修会への参加も会員は全て無料です。所属する区支部以外の研修案内は郵送で直接お知らせすることができませんので、各自ホームページで開催予定の研修会情報をご覧ください。興味のある研修会へご参加ください。

その他ご不明の点がございましたら会事務局までお問い合わせください。 ☎ 011-792-1811



## こんにちは！役員

顔の見える関係をコンセプトとして、本会札幌市ケアマネ連協の役員の方々をご紹介します。

### 厚別区支部長 勝見 啓志

（札幌市社会福祉協議会白石・厚別・清田事業所）



先日の全国大会はスタッフおよび参加の皆さんお疲れ様でした。介護予防・日常生活支援総合事業、制度改正に向けてCMの資質向上と関係機関との連携強化が更に重要となってきますね。

厚別支部会員の皆さんと共に、ご利用者、関係機関、地域住民、ケアマネジャー皆が幸せになれる支部活動をしていきたいです。よろしく願い致します。

### 豊平区支部長 和田 賢太

（北海道病院附属居宅介護支援センター）



大変お世話になっております。豊平区支部長の和田です。会員の皆様と津田さん、川野さん、荒井さん、伊藤さん、山澤さん、蛭川さん、後藤さん、大木さんの役員と共に頑張っております。今後も皆様と共にケアマネジメントの質の向上、また地域の為に頑張っていければと思っております。よろしく願い致します。

ケアマネのためのスキルアップ情報コーナー 

知っ得  
特別授業

## 信頼されるケアマネのコミュニケーション

## 第6回『来談者主導とは』

北海道医療大学看護福祉学部 准教授 長谷川 聡  
(コミュニケーション学)



連載も最終回となりました。ここまでお読みいただいて有難うございました。まとめに代えて、「信頼されるケアマネのコミュニケーション」の理念あるいは行動原理を述べて終えることにします。

介護サービスの提供はケアマネとクライアントの「契約」に基づきます。最終回のテーマ「来談者主導」という考え方はこれに由来します。福祉が「措置」の時代にはなかった考え方です。

ケアマネの基本業務フローは、要介護者のインタビュー、アセスメント、ケアプラン作成、サービス提供までの一連のマネジメントを行うことです。クライアントの暮らしの現況を正確に把握し（アセスメント）、今の暮らしをどうしたいのか（主訴）、それは本人と家族が真に望んでいることか、援助者が何を提供すればその願いが適うか（ニーズ発見）、その先はどうなるのか（ゴール）を見極めます。そして提供可能なサービスを説明し、必要があれば生活と介護に関するあらゆる助言や、サービス・メニュー以外のことも含めて、ケアマネが知りうる限りの情報を提供します。

「来談者主導」とは、このプロセスの中でケアマネがクライアントの希望や考えかたを否定したり、よし悪しを言ったりしない。十分にクライアントの話を聴かないうちに今後の関わりかたやサービス・メニューを自身の判断で決めて勧めたりしない。そうしたことを戒め避けるためにあります。このことばは「当事者の自己決定」と対をなす考えかたです。

この話をすると、「クライアントの言うことに何でも従わなければならないのか」、「クライアントが間違っている、よくないことだってある」という人

がいます。そういうことではありません。「主導」は「服従」ではありません。クライアントに対する「指導」「教育」的な態度やパターンリズム的言動を慎むということです。まずはクライアントの話に耳を傾けること。その話が自分の価値観と異なるとしても、その思いや感情を受け止めて、話し合う姿勢を示すこと。自分の正しさや価値観を押し付けないよう自制すること。クライアントのその後の人生と生活に、ケアマネというあなたが求められ、必要とされる限り寄り添い続ける姿勢を示すこと。いつでもケアマネに「こうしたい」「これに困っている」「ちょっと話したい」と言える関係性を保つことなのです。

お話は以上です。何かお役に立ったでしょうか。私の専門がコミュニケーション学だと言うと「話しかたのセンサー」とよく言われます。でもこの連載でコミュニケーション学が話し方だけのことではないことをご理解いただけたでしょう。口先だけの話し方の勉強でコミュニケーション力は身につけません。コミュニケーション力を磨くということは、周囲と自分との対話を深めることです。さらに、組織や仕事が人と人の関係性によって成り立っていることを深く理解して、関わる人たちすべての「知・情・意」が澁みなく行き交うように工夫と努力を重ねることです。またどこかでお話しできることを願ってワークショップ入力を終えます。重ねて有難うございました。



岡田しげひこ先生の **住宅改修****ワンポイント 講座 <第3回>**

理学療法士として多方面で活躍されている岡田しげひこ先生（特定非営利活動法人HPT 統括部長）に6回にわたり住宅改修のポイントをご紹介します。

**<住宅改修ワンポイント ~浴室~>**

今回は、浴室の改修のお話をします。

浴室は、当たり前ですが入浴をする場所です。その入浴は、食事・排泄では味わえない満足感を得ることができ大切な行為ですが、最近の傾向として、在宅での入浴がしづらくなれば、すぐに通所での入浴サービスを利用するという流れができてしまっているように思います。通所の入浴サービスを悪く言うつもりはありませんが、皆さん自身が通所の入浴サービスを利用すると想定してみましよう。待ちに待った週1回の通所での入浴ですが、入浴前の血圧測定で引っかけたてしまい、次の回まで2週間入浴できないことになってしまいました。皆さんは、どうしますか？ 我慢できますか？ ましてや、通所での入浴は、日中のみであり、一人一人の都合に合わせることは難しいです。本来の入浴は、体が冷えたから、寝つきを良くするために、1日の締めとしてなど入りたい時に、「ハア～」と言いながら湯につかるのです。その満足感は、在宅での入浴ならではないでしょうか。在宅での入浴に前向きに取り組んでいきましょう。



その在宅での入浴を実現させるためには、浴室のみの改修ではなく、浴室までの移動、衣服の着替え、洗髪、洗体、浴槽への出入りの動作等について、本人の身体状況や家族の介護能力に適した方法を検討し、どのような支援が必要か考えましよう。

**1. 衣服の着替えは、バランスを崩しやすい**

脱衣室で座って行うのであれば、座面が広めの安定感のある椅子を用意してください。

**2. 浴室の開口幅は意外と狭い**

ドアには開き戸、折れ戸、引き戸と各種あります。採寸するときは、実際の有効幅を正確に計りましよう。

**3. 洗体用の手すりは便利**

お尻を洗うための中腰姿勢用の水平の手すり（手すりの高さの目安：座位姿勢での肩の高さ）は、役立ちますよ。

**4. 浴槽への出入りは、座るとは限らない**

例えば、パーキンソン病の方は立った方がうまくいくことがあります。

**5. 大きい浴槽には要注意**

浴槽内の足や体が浮かないように、足が浴槽に押し付けることができる工夫をましよう。

（例：浴槽台をつっぱり台に活用する）

次回は「階段」です。

**ケアマネジャーの皆様へ、ケアマネ川柳 を募集いたします！**

応募方法→Eメール、FAX、会ホームページのお問い合わせフォーム等で、下記ご連絡ください。

- ・氏名と会員No（お名前は掲載いたしません。景品をお送りする場合に確認するのみです）
- ・ペンネームとケアマネ川柳

今回はケアマネSAPPORO2月号です。テーマはケアマネに係ることであれば自由です。締切は、12月31日です。 お気軽にご投稿ください☆

採用された方にクオカード  
1000円分プレゼント☆



E-mail : kouhou@sapporo-cmrenkyo.jp  
FAX : 011-792-5140  
ホームページ : <http://sapporo-cmrenkyo.jp/>  
(札幌ケアマネで検索可)

## ケアマネ奮闘記 ①

居宅介護支援事業所 温ったか介護ぬくぬく 岡野 秀計

福祉の世界で色々な経験をして、3年半前の春に現在の会社「ホットステーション」でケアマネとして働き始めました。

最近私は、初めて虐待の事例にかかわりました。行政の方や包括の方と何度も会議を重ね、最終にこぎつけた時には安堵を感じました。この事例を通して、自分の課題分析の甘さ、また訪問時、「大丈夫です」という家族の言葉の裏側を感じてあげることができなかった事に気が付きました。事例を通して、行政や包括の考え方を学び、とても勉強になりました。

今現在も、ご本人と家族の意見がぶつかり、意見のとりまとめが難しいケースにかかわり頭を悩ませています。利用者さんご本人にとって何が幸せなんだろう、ご家族にとっては、何が…と考え、ケアマネの立ち位置の難しさを感じています。

この職場には、スーパーバイザーとして、耳を傾けてくれる先輩方と同僚がいます。困った時には、「困った!」と周りに伝える事が必要だと、今更ながらに感じています。この職場に巡り合い、自分が成長させてもらえる、と思うと幸せを感じます。

この仕事は、楽しい事ばかりではなく、お叱りもたくさんいただき、打ちひしがれた時もありますが、その反面、利用者さんから感謝の言葉をいただき、心躍らせた時もあります。これからも利用者さんの人生に寄り添い、人生の最後を、より本人らしく過ごしていただけるように、ケアマネとして邁進したいと考えています。日々、勉強に励み、「奮闘」していきたいと思えます。



## ケアマネ奮闘記 ②

小規模多機能型居宅介護 ツクイ札幌稲穂 土岐 志穂

ケアマネの資格を取得して、早3年8ヶ月という時が経過しております。

業務についた頃、想像以上の仕事に忙殺され、頭も身体も何度か停止寸前になりました。

当時を振り返ると必死さだけで、きちんと相手や家族の事を思いやり、考えてあげることが出来ていたのだろうかという事が頭をよぎり当日を振り返ります。

介護員として勤務をしていた小規模多機能の居宅介護は通い、泊まり、訪問を組み合わせたサービスの提供を行っておりますが、デイサービスや、訪問介護事業所と異なりサービス提供責任者や相談員がおらずその全ての業務を、時には介護員として借り出され、レクレーションの進行、訪問介護や送迎職員のピンチヒッターに補填され毎日があっという間に過ぎ去ってしまいます。

当事業所を利用開始されるお客様には、本人の希望が無く家族の希望のみでサービス提供を開始されたりするケースや、デイサービスのお迎えに伺っても「まだ寝てたい」と布団に入っていたり、訪問に伺っても留守にされているなど、一筋縄では行かない事が多いのです（笑）ですがここが小規模の強みを発揮できる場面であり、ここで様々なアイデアがいきてくるのです。そこにたどり着くまで結構時間はかかるのですが、そこに、関わっていただいている様々な方々の様々な力を日々実感しております。

これからも感謝の気持ちを忘れず日々の業務に取り組んでまいります。

〇〇を知っていますか？シリーズ



## 認知症疾患医療センターを知っていますか？

江別すずらん病院は平成26年7月に認知症疾患医療センターの指定を受け、平成28年7月からは医師、精神保健福祉士、看護師の3名体制で稼働しています。

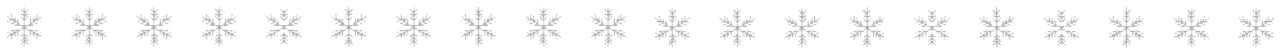
認知症疾患医療センターの役割は、認知症の鑑別診断、身体合併症と行動心理症状への対応、専門医療相談を実施するとともに、地域の保健医療・介護関係者等との連携の推進、人材の育成を行うことにより、認知症の人と家族が安心して生活できるよう、地域における支援体制を構築していくことです。

私は、センターの看護師として、認知症の人やご家族、地域の多職種から様々な相談を受けています。その中には暴言・暴力などの行動・心理症状で地域で生活することが困難になっているという事例が多くあります。しかし、暴言・暴力の背景には便秘や疼痛等の身体的不調や周囲の環境・家族の介護の仕方に問題がある場合など様々です。そのため、医師と協働し薬物療法だけではなく、認知症の人の言葉にできないサインや気持ちを汲み取り、家族や地域の多職種と共に、認知症の人を支えていける体制をつくっていきたいと思っています。9月からは往診、11月からは「家族のための認知症勉強会」も開始し、地域の方々と共に、「認知症になっても困らない地域」を作るため、頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

(文：看護師 澤田 萌)

参考：北海道庁ホームページ「認知症疾患医療センターについて」

[http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/shf/Seishin/Ninchi\\_Center.htm](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/shf/Seishin/Ninchi_Center.htm)



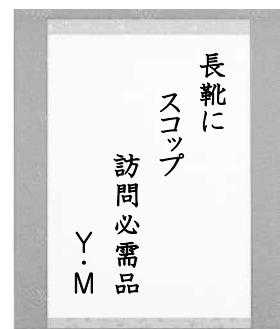
- 研修会等の最新情報は、会ホームページをご覧ください。ケアマネ求人情報も掲載しています。
- ケアマネSAPPOROへのご意見やケアマネとしての経験談(うれしかったこと、失敗談などなど)をお気軽に寄せてください。



### ケアマネSAPPORO 103号 (2016年12月1日発行)

発行元：一般社団法人札幌市介護支援専門員連絡協議会  
 編集：一般社団法人札幌市介護支援専門員連絡協議会 広報委員会  
 広報委員長：長崎 亮一  
 広報委員：南 靖子 宮川 亮一 姉崎 重延 鈴木 晴美  
 伊藤 和哉 和田 賢太 飯田 裕一 藤川 宏子

E-mail : [kouhou@sapporo-cmrenkyo.jp](mailto:kouhou@sapporo-cmrenkyo.jp) ホームページ : <http://sapporo-cmrenkyo.jp/>  
 (札幌ケアマネで検索可)



ケアマネ川柳